

身近なボランティア
献血のおはなし



献血した血液の小旅行

手術室の看護師が「血が止まりません。輸血が必要です！」と医師に訴える。医療ドラマで緊迫する場面です。献血した血液が保存され、そのまま輸血されるように思えますが、輸血されているのは血液製剤です。

例えば、血が止まらない場合には止血効果がある血小板製剤を、出血等による酸素欠乏になると赤血球製剤を…というように。実は医療現場での輸血では、血小板製剤が半数を占めるそうです。

献血バスなどで献血した血液は、瀬戸市の森の中にある東海北陸ブロック血液センターまで運ばれ、安全な血液かどうか検査されます。副作用の原因となる白血球の大部分を除去してから、各成分の比重の差により遠心分離をして、赤血球と血漿（けっしょう）に分けます。その後、献血ルームの成分献血から調製する血小板と共に血液製剤として保管されます。

そして医療機関には、隣接する愛知県赤十字血液センターから24時間体制で届けられます。

このように、献血会場 ⇒ 瀬戸市の血液センターまで運搬 ⇒ 血液の検査、血液製剤に調製・保管 ⇒ 医療機関に運搬という流れになります。静岡県や三重県等の献血会場からは小旅行ともなりますが、幸い、血漿製剤の有効期間は1年あります。

ただ、赤血球製剤は21日間、血小板製剤は採血日を含めて4日間しか使えませんので、献血がストップすると供給に大きな影響が出ます。

献血は人を助けることができる、身近なボランティアともいわれます。

市内で献血バスを見かけた時や、名古屋駅でお時間がある時には、献血にぜひご協力をお願いします。



(日本赤十字社キャラクター
ハートラちゃん)

*献血バスの運行スケジュールは、愛知県赤十字血液センター（TEL0561-84-1131）にお尋ねいただくか、同センターのウェブサイトで日時と献血会場が検索できます。

*名古屋駅前には、成分献血もできる献血ルームタワーズ20（TEL052-571-1002）や、同ゲートタワー26（TEL052-589-2229）があります。

日本赤十字社一宮市地区

西尾張ブロックボランティアフェスティバル

開催テーマ 心をつなぐボランティア
～みんなで考えよう!!今だからこそできること～

日 時：12月18日(土)午後0時30分～午後4時20分

会 場：名古屋文理大学文化フォーラム(稲沢市民会館) 中ホール
(稲沢市正明寺三丁目114番地)

内 容：コロナ禍におけるボランティア活動をテーマとした講演会、コロナ禍でもボランティア活動を継続されているシンポジストの活動発表(高齢者分野・子ども支援分野・環境分野・青少年分野)、ステージイベント

申込み・問合せ：本部 TEL85-7024

※主催者の都合により開催が中止または、内容が変更になる場合がございます。

今年度は
稲沢市!

(要事前申込)